

令和4年度 文京学院大学文京幼稚園 学校関係者評価委員会（ご意見のまとめ）

令和5年4月30日

令和4年度は、学校関係者評価委員会開催を令和4年6月25日、令和5年3月25日に対面で開催することができました。学校関係者評価委員8名の皆様には「保護者アンケート結果」「教員自己評価結果」など資料を配布の上で発表させていただき、貴重なご意見を頂戴しました。さらに、委員皆様には後日ご意見やアドバイスを書面にて項目ごとにご記入いただきました。その中から抜粋したものを以下に掲載させていただきます。

いただきましたご意見は真摯に受け止め、園運営を少しでも改善できるよう努めてまいります。

評価項目	評 価（本園の行った自己評価に対するご意見・ご感想）
重点目標 1 1-① 1-② 1-③	<ul style="list-style-type: none"> ●運動会では、重点目標「身近な環境に主体的に関わり、活動を楽しむことを通して豊かな心を育てる」が各学年の競技内容に意識されていて興味深く思えた。（運動会を参観いただきました） ●子どもの気持ちに寄り添い、自己表出を促す工夫をされており感銘を受けた。感情のコントロールが難しい子どもへの対応に関しては個人差や資質的な課題も鑑みていく必要がある。 ●②身のこなし方は、日々の生活の中でも身に付く。意外な身のこなし方等探してみると、面白いかもしれない。③お互いの気持ち・感情を理解するには時間と仲介役が必要だと思う。 ●①感染予防については、・・・「教員自身がモデルとなり、取り組むことができた」と記されていたため、良かったと思う。家庭での生活リズムを整えることも大切であることを、保護者側に発信できると良いと思う。 ③自分の意に沿わないと癇癪を起してしまう・他児を傷つけてしまう子どもには anger management が必要。こだわりが強く受け入れられる幅が狭い子どもや、何かに過敏性が強い子どもには、こちらが譲歩できる部分は譲歩できない部分はどうしたら良いか考えていく必要がある。
重点目標 2 2-① 2-② 2-③	<ul style="list-style-type: none"> ●園児が満足感や達成感を十分に感じられる様に、イメージ作りを子ども達と準備を一緒に取り組み、表現の喜びを感じ取れるように、個人と他者の違いに気付かせる等の取り組みは素晴らしいと思いました。 ●参加しない子どもに対して、興味関心を持てるよう工夫したことは非常に良かったと思います。 ●①環境の再構成が遊びを発展させることがよく分かっている。②自由な表現が認められることで、園の雰囲気は良くなり、楽しい園生活が想像できる。 ●子どもの表現や表出を常に受容し、共感している姿勢に感服しています。子どもの興味関心は偏りがちになる傾向もあるため、より体験を広げていく工夫も必要となると感じます。 ●子どもは安心し、リラックスしたときに自分を出せるのだと思います。評価をせずに表現を引き出したり、子どもの表現に共感したりしたことで自由に表現できる環境が作れたのだと思います。自分を出すことが得意な子どもだけでなく、小さなつぶやきや、マイナスの表現も拾っていくよう、今後も子ども達の豊かな心を育てていってください。
教員自己評価結果 1 保育内容の工夫 2 環境構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの前向きな表現を受け止めて、日常の保育の中で子どもの自己表出を他の子どもに伝える「橋渡し」的な工夫が多く見られました。3つの間（仲間・空間・時間）を保育の中に取り入れて環境構成を行っていることは素晴らしいと感じます。 ●先生方が子ども達と一緒に遊びながら、共感したり励ましたりしている姿が目につかびます。文京幼稚園の先生方の園児に寄り添う姿にはいつも心打たれます。 ●1繰り返し挑戦し、教員が共に遊び、子どものすぐ傍にすることがとても素敵である。2やりたい遊びの内容により、柔軟に場を見つれたり環境を整えたりすることは発見にも繋がり、子どもは期待感をもって登園すると思う。 ●遊びの中に「学び」や子どもの「気づき」を生む取り組みをされていてとても良いと思いました。ただ遊ばせているのではなく、子どもの疑問に丁寧に対応していることで学びにつながっていったのだと思います。教員が子ども達の楽しさの中に身を置くことで子ども達が何を楽しんでいるかが見えてくるのだと思います。
教員自己評価結果 3 幼児への対応 4 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者への対応では、ホームページ内ブログ『幼稚園日記』を共有することで、園の保育内容を両親一緒に理解を深めてくださっている姿が感じられる。（保護者アンケート自由記述より）これからも無理なく掲載を続けられると良い。 ●コロナ対策をしながら、園行事の実施を検討し拡大してきた先生方に対し、アンケート結果のごとく、保護者は概ね好意的で感謝の気持ちで受け止めており、良かったと思います。「れんらくアプリ」への賛成意見や、アンケート回収率100%から見ても、IT化が成功して良かったと思います。 ●3幼児理解から保育は始まり、子ども一人ひとりの理解、そして教員同士の情報の共有は、園の保育の質を高めている。 4保護者との対面でのふれあいは、大切である。話をちょっとするだけで嬉しくなる。

	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの個性を活かし、また課題を克服するための個別指導も行い、その教員の努力が子ども同士のピア・サポートに繋がっていると感銘を受けました。
<p>教員自己 評価結果</p> <p>5 研修と研究 6 安全管理 7 職場環境 学年チームの 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●安全管理を日々怠らず、先を見据えて備えているところが良いと思う。 ●園内研究「保育ドキュメンテーション」では、「意見を活発に交わすことを通し、他学年・他クラスの保育の理解を深めることができた」、と記されており、さらに新任教員に対しても、学年を超え、気軽に聞けるような雰囲気作りを気にかけていくなど、成果となって表れていると思う。 ●信頼関係は、園の中で教員同士互いの良さを認め、実践を重ねて出来上がっていくものであると考える。互いの良さに気付くためにも、教員同士が自分の得意なことを教え合うような、日常生活の中での「ゆとりの時間」を設けられると良い。 ●・・・幼稚園の仕事はきりがなく、時間がいくらあっても足りない程だと思いますが、時間を有効に使う工夫をされてきたのは良い取り組みだと思いました。先生により、また年代により意識の差が出てくるのはいずれも同じですが、今後は簡略化しても良いことや、ICTの活用により、先生方の働き方も改革していく時代なのかもしれません。 ●「世代」に対する意識を薄めて、人間対人間で接する意識を高めていくような感じがよいのかなと思いました。引き続き、教員の皆様が明日の体と心の健康を保つために休養をとることを意識されてください。